

「御言葉はあなたの近くにあり、あなたの口、あなたの心にある」
(ローマの信徒への手紙 10 章 8 節 b)。

これは桃山基督教会の 2016 年度年間聖句です。「言葉」は聖書の中で、とても重要なものです。

天地創造の第 1 日に、神さまは光をつくられました。そのときの様子がこのように書かれています。

神は言われた。「光あれ。」こうして、光があった。(創世記 1 章 3 節)

神さまは言葉を発することによって、この世界の創造を開始されたのです。創世記の 1 章をみると、神さまは幾度となく言葉を発し、その世界を形作っていかれたことがわかります。そして新約聖書のヨハネによる福音書 1 章には、「初めに言(ことば)があった」から始まる「ロゴス賛歌」が書かれています。

このヨハネ福音書に書かれている「言(ことば)」はイエス・キリストのことです。イエス様は神さまからのメッセージをすべての人に伝えるとき、その人の中に言葉として存在し続けるのです。

聖公会の礼拝の中で福音書が朗読されるときには、「一同福音書の方を向く」と祈禱書に書かれています。手元にある聖書を、一生懸命目で追う必要はありません。「み言葉を聞く」ということが大切にされているのです。

み言葉であるイエス様は、わたしたち一人一人の内に来てくださいます。そのことを感じながら、どうぞこれからも、み言葉に耳を傾けていきましょう。

「み言葉は人となり、わたしたちの間に住まわれた」。

次回は「ゴルゴダ」です。お楽しみに。



「システーナ礼拝堂のフレスコ画」
ミケランジェロ・ブオナローティ
(1475～1564 年)

初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。

(ヨハネによる福音書 1 章 1 節)

